

薩摩川内市樋脇町藤本周辺の植物（第2報）

桐野 秀信

Flora of Fujimoto, Hiwakicho, Satsumasendai City No.2

Hidenobu KIRINO

キーワード：植物目録，植生調査，絶滅危惧種

はじめに

筆者は、鹿児島県立博物館研究報告第36号に「薩摩川内市樋脇町藤本周辺の植物」（桐野・篠崎，2017）を報告した。

その後も藤本周辺の植物の観察を継続し、いくつかの興味ある植物の分布を確認できたので当地の植物相の第2報として報告する。なお当地区の地形・地質等については、鹿児島県立博物館研究報告第36号を参照されたい。

1 調査地植物相の概況

第1報での報告以外の藤本地区内の調査地の概況を以下に記す。他は鹿児島県立博物館研究報告第36号を参照されたい。なお、本調査地は国土地理院25000分の1の地図メッシュでは、塔之原と薩摩郡山の一部にあたる。



図1 薩摩川内市樋脇町市比野藤本周辺位置図
(国土地理院電子国土Webより)

1.1 七福神岩周辺の植物相

七福神岩については、藤本小学校開校百周年記念誌（1982）に、以下のような記述がある。「七福岩郡山との町境に近い三方塚にあるこの岩は、名前の



図2 1961年撮影の七福神岩

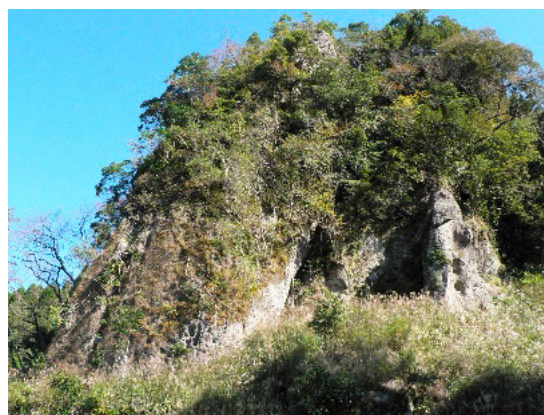


図3 現在の七福神岩の一つ

通り七つの岩が林立し、恰も宝船に乗り込んだ七福神の姿を髣髴せしめる観がある。七福岩の銘名者は元、鹿児島新聞記者であった市比野出身の寺田正吉氏といわれている。戦前まではこの岩に枝振りよい松が生え、根本には岩ひばや石こくも這い茂り、早春ともなると岩つつじの鮮やかなピンクが遠くからもはっきりと眺められたものであった。ところが戦後花木は乱掘され、松くい虫の被害で老松まで朽ち

てしまったことは返す返すも残念なことである。」との記述がある。最近往時の景観を復元させようと、地元の有志が雑木の伐採などに取り組んでいる。この凝灰岩の尖塔などなる険しい地形の付近を踏査してみた。大方の低地や谷筋にはスギが、乾いた尾根筋にはヒノキが植林されている。その間を雑木林が埋めている。この山の頂上は、薩摩川内市と鹿児島市の境界線が走る八重山の西方へ伸びている台地となっている。この地域では、木本類でアラカシ、コジイ、マテバシイ、ヤマザクラ、ヒサカキ、ニガキ、ゴンズイ、クマノミズキ、ヤブツバキ、クロキ、アオキ、バリバリノキ、サザンカ、タブノキ、ヤブニッケイ、ヤマツツジ、ネジキ、エノキ、ネムノキ、コガクウツギ、イズセンリョウなどが見られた。小さな谷筋で1本のガクウツギも確認できた。草本類では、ムサシアブミ、マムシグサ、ナンゴクウラシマソウ、数種類の地生ラン、ツクシショウジョウバカマ、ホトトギス、イワタバコ、ミヤマミズなどがある。ごく少数ではあるがセッコクも自生している。つる植物ではオオバウマノスズクサ、テイカカズラ、カギカズラ、シタキソウ、キダチニンドウなどがある。シダ植物は、ナチシダ、コバノカナワラビ、クルマシダ、ミヤマノコギリシダ、ノコギリシダ、イワガネソウ、クリハラン、ヒトツバ、カタヒバ、ハイホラゴケ、タニイヌワラビ、キジノオシダ、オオキジノオシダなどがある。



図4 ガクウツギ

1.2 仙名原湿地の植物相

県道36号線（川内郡山線）と県道304号線（仙名伊集院線）の分岐点、旧藤本小学校の後背地の仙名原台地の西側を、牛鼻を源流とし、いちき串木野市へ流下する八房川が流れている。その谷あいには山仁田、宇津良の湿地帯がある。山仁田湿地は三方をシラスの堆積した山に囲まれた湧水のある湿地で、アカサスゲなどスゲの仲間が繁茂している。ここに



図5 山仁田湿地

サツママアザミ、ヒメカンガレイ、エゾアブラガヤ、ツクシアブラガヤ、ミズユキノシタ、コナギ、ヌマダイコン、ミゾソバなどがある。宇津良には、水田と杉の植林地の間の山際に水の染み出る場所がある。このごく狭い場所に、フトイ、サツママアザミ、サワヒヨドリ、イヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、ホタルイ、クロホシクサ、ミミカキグサ、ミズトンボ、アリノトウグサなどが見られる。そこから少し離れた荒原湿地には、ススキ、ノイバラ、オカトラノオ、ナツフジ、メリケンムグラ、ミゾソバ、ガマ、ミズ、オギノツメ、セイコノヨシ、イグサ、スゲspなどが見られる。



図6 ガマ自生地

2 鹿博研究報告第36号報告以降に確認した植物について

植物の学名・科名等は、「日本維管束植物目録北陸館」（米倉，2012）に従った。科の中では、属、種は全てアルファベット順に配列してある。

雑種分類群については、正式に発表された二名法の学名をもつものについては非雑種と同じ扱い、それ以外は両親種をアルファベット順に×で接続し

た雑種式で示してある。

属名はの中で最初の種のみ全体表示し、後は頭文字のみに略す。

環境省レッドリスト絶滅危惧種ランクは以下のように略記する。EX:絶滅, EW:野生絶滅, CR:絶滅危惧ⅠA類, EN:絶滅危惧ⅠB類, VU:絶滅危惧Ⅱ類, NT:準絶滅危惧, DD:情報不足

鹿児島県レッドデータ植物の種ランクは、「改定鹿児島県レッドデータブック」（平成28年発行）をもとに県危惧Ⅰ：絶滅危惧Ⅰ類（環境省評価CR+ENに対応する）、県危惧Ⅱ：絶滅危惧Ⅱ類（環境省評価VUに対応する）、県準危惧：準絶滅危惧（環境省評価NTに対応する）、分布重要（環境省にはこのカテゴリーはない。）と略記する。

帰化植物、栽培逸出植物は、それぞれの和名の後に（帰）および（栽逸）と表示する。

今回新たに確認した科、属、種などの数は、56科98属112種 変種2,品種2である。重なりを省き、鹿博研究報告第36号で報告した種と合わせると下の表1のように151科471属804種になる。

表1 ()は、第2報で新たに加えた数の再掲

	科 数	属 数	種 数
シダ植物	23(2)	50(6)	種 122(15), 変種 2, 雑種 2
裸子植物	3	3	種 4
被子植物	125(5)	418(42)	種 678(97), 変種 7(2), 雑種 1, 品種 3 (2)
総 計	151(7)	471(48)	種 804(112), 変種 9(2), 品種 3(2), 雑種 3

3 分布上注目すべき植物

3.1日本の絶滅する恐れのある植物

（環境省レッドリスト植物）

絶滅危惧植物のランクは環境省の表示にならないように略記する。EX：絶滅, EW：野生絶滅, CR：絶滅危惧ⅠA類, EN：絶滅危惧ⅠB類, VU：絶滅危惧Ⅱ類, NT：準絶滅危惧。

① トウカテンソウ（イラクサ科）〔CR, 県 危惧Ⅰ〕

中国大陸中部に分布するこの種が日本では鹿児島県にのみ隔離分布する。小山田、宮之城、山崎、樋脇が自生地として知られている。杉木立の中を午除へ通じる道の路傍に小集団を3か所確認した。その後そこから直線距離で1 kmほど離れた牛鼻の、現在は廃屋となっている家へ続く川沿いの小道で、

数十メートルにわたって群生する集団を確認した。最近になって県内の他の場所での自生報告も増えてきている。地味な花なので今まで見過ごされていたのかもしれない。

② アオカズラ（アワブキ科）〔EN, 県 危惧Ⅰ〕

やや湿った林縁に自生する落葉のつる性植物。四国、九州に稀産、県内の分布地も散在している。藤本滝の上流の川辺に開花株を2本確認。その後八重高原の鹿大入来牧場内の路傍、せんその滝上流の溪流沿いでも確認できた。

③ ヒメカンガレイ（カヤツリグサ科）〔VU, 県 危惧Ⅰ〕

山仁田湿地で、サツママアザミヤスゲ類に混ざって3か所で小群落を確認する。

④ ミズトンボ（ラン科）〔VU, 県 危惧Ⅰ〕

宇津良の水田脇の水の染み出る10㎡くらいの狭くて、小高い場所で、フトイ、サツママアザミ、ミミカキグサ、モウセンゴケなどの間で10本くらいの開花株を確認する。

⑤ ナツエビネ（ラン科）〔VU, 県 危惧Ⅱ〕

山頂に近い標高500mくらいのやや湿った林内に数株を確認する。開花株を後日確認に行ったところ、獣と思われる何かが花穂を食べていた。

⑥ クマガイソウ（ラン科）〔VU, 県 危惧Ⅱ〕

夏緑の地生ラン。山頂に近い雑木林の中で幼苗を確認。かつてはモウソウチク林内で開花株を見かけることがあったが、観賞用に採取されるなどしたため激減した。開花株は確認できていない。

⑦ クロホシクサ（ホシクサ科）〔VU, 県 危惧Ⅱ〕

先述のミズトンボ自生地でも確認する。

⑧ ツルギキョウ（キキョウ科）〔VU, 県 危惧Ⅱ〕

県道から少し入った仙名原台地入り口の路傍土手で果実をつけた一株を確認する。薩摩植物誌（土井、1938）の八重岳の項に本種確認記述がある。

⑨ サツママアザミ（キク科）〔VU, 県 危惧Ⅱ〕

八房川沿いの水田の脇の小高い湿地にフトイやサワヒヨドリなどとともに小集団をつくっている。山仁田湿地、上藤本の湿田横でも群生を確認できた。土井（1938）は、八重岳向陽湿地確認種としてマアザミを記述している。本種であろう。

⑩ ミズマツバ（ミソハギ科）〔VU, 県 準危惧〕

岩下、菖蒲ヶ段の水田でキカシグサやスズメノハコベなどと混生している。

⑪ スズメノハコベ（オオバコ科）〔VU, 県 準危惧〕

ミズマツバと絡まるように混生している。

⑫ エビネ (ラン科) [NT, 県 危惧Ⅱ]

スギ林や雑木林内に数株が点在。近くにはキエビネやタカネも少数だが自生している。

⑬ ウスギムヨウラン (ラン科) [NT, 県 危惧Ⅱ]

藤本滝右岸の雑木林内に10数株の開花株を2年続けて確認した。近くにはシャクジョウソウも自生する。

3.2 鹿児島県の絶滅のおそれのある植物

(改定鹿児島県レッドデータブック平成28年発行より) 危惧Ⅰ：絶滅危惧Ⅰ類 (環境省評価CR+ENに対応する), 危惧Ⅱ：絶滅危惧Ⅱ類 (環境省評価VUに対応する), 準危惧：準絶滅危惧 (環境省評価NTに対応する)

① 危惧Ⅰ

ジンジソウ 標高500mくらいの尾根に近い湿った林内の凝灰岩の崖にイワタバコやクサアジサイなどととも自生している。近くにはツクシショウジョウバカマやホトトギスの群生もみられる。ジンジソウの自生地としては、国内での分布南限地と考えられる。

② 危惧Ⅱ

サイハイラン, ムヨウラン, ガクウツギ

③ 準危惧

セッコク, ナガバジャノヒゲ, ムツオレグサ, ミズ, ツルマサキ, ハナタデ, クサアジサイ, ツルニガクサ, ガマ, コガマ, サクラタデ, ヒゲアブラガヤ, ケサンカクヅル, イヌノハナヒゲ, イトイヌノハナヒゲ

④ 分布重要種

ウラボシノコギリシダ, タニイヌワラビ, オニヒカゲワラビ, トウゴクシダ, オクマワラビ, ナンゴクウラシマソウ, アオウキクサ, ホトトギス, コウガイセキシヨウ, カサスゲ, ササガヤ, クサイチゴ, ミヤマミズ, オカトラノオ, シタキソウ, イヌコウジュ, ハルノタムラソウ, キッコウハグマ, ノコンギク, ミミカキグサ

3.3 帰化植物および栽培逸出植物

判定は、「日本維管束植物目録」(米倉, 2012)を参考にした。

イヌカタヒバ, ナガミヒナゲシ, シロバナシナガワハギ, オオニシキソウ, ナガエコミカンソウ, センナリホオズキ, ウキアゼナ, ツボミオオバコ, カッコウアザミ, ウラジロチチコグサ, ボタンクサギ, ホタルブクロ, ウチワゼニクサ, イワヨモギ,

ヤナギハナガサ, アレチハナガサ, ハマクマツヅラ, マルバルコウ

4 まとめ

鹿児島県立博物館研究報告第36号(2017年)報告以降に、新たに種112, 変種2, 品種2を確認した。両報告を合わせると151科471属804種, 変種9, 品種3, 雑種3となる。環境省レッドリスト指定絶滅危惧種(絶滅危惧ⅠA, ⅠB, Ⅱ, 準絶滅危惧)が新たに13種を加え, 30種となった。また環境省指定と重ならない鹿児島県レッドデータブック絶滅危惧種(絶滅危惧Ⅰ類, 絶滅危惧Ⅱ類, 準絶滅危惧)は新たに19種を加え88種となった。国と県の指定を合わせると118種で, 確認した804種の15%にあたる。帰化・栽培逸出植物は, 新たに18種を加え98種を確認した。

おわりに・謝辞

本調査研究の発表の機会と, 多くの指導助言をいただいた久保紘史郎学芸主事をはじめとする鹿児島県立博物館の皆さま, 標本同定にあたりご指導をいただいた丸野勝敏氏, 立久井昭雄氏に深く感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 土井美夫(1938)薩摩植物誌:75-76
藤本小学校百周年記念事業実行委員会(1982)藤本小学校百周年記念誌:70-94
初島住彦(1986)改定鹿児島県植物目録, 290pp. 鹿児島植物同好会
環境省(2012)環境省第4次レッドリスト 植物, 環境省
鹿児島大学博物館 種子植物DB. https://dbs.kaum.kagoshima.ac.jp/musedb/s_plant/s_plant.php (2021年1月6日閲覧)
鹿児島県(2016)改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編 -鹿児島県レッドデータブック-, 499pp. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島県.
桐野秀信・篠崎チサ(2017)薩摩川内市樋脇町藤本周辺の植物. 鹿児島県立博物館研究報告,(36):81-102
米倉浩司(2012)384pp. 日本維管束植物目録, 北隆館, 東京都.
鈴木英治(2020)鹿児島大学植物標本(KAG)の採集地について. 鹿児島植物研究会誌 (9):1-5

表2 植物目録

[シダ植物 PTERIDOPHYTE]		
イワヒバ科 SELAGINELLACEAE		
イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i> Hieron.	帰化植物
トクサ科 EQUISETACEA		
イヌドクサ	<i>Equisetum ramosissimum</i> Desf. var. <i>japonicum</i> Milde	
リュウビンタイ科 MARATTIACEAE		
リュウビンタイ	<i>Angiopteris lygodiiifolia</i> Rosenst.	
コケシノブ科 HYMENOPHYLLACEAE		
オオハイホラゴケ	<i>Vandenboschia burmanica</i> (Bedd.) Ching	
キジノオシダ科 PLAGIOGYRIACEAE		
キジノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i> Nakai	
ヘゴ科 CYATHEACEAE		
ヘゴ	<i>Cyathea spinulosa</i> Wall. ex Hook.	
コバノイシカグマ科 DENNSTAEDTIACEAE		
イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i> (Thunb.) Mett. ex Kuhn	
イノモトソウ科 PTERIDACEAE		
ヒメミズワラビ	<i>Ceratopteris thalictroides</i> (L.) Brongn. var. <i>vulgaris</i> Masuyama et Watano	
ヒメシダ科 THELYPTERIDACEA		
ハシゴシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i> (Kunze) Ching	
イワデンド科 WOODSIACEAE		
ウラボシノコギリシダ	<i>Anisocampium sheareri</i> (Baker) Ching	
タニイヌワラビ	<i>Athyrium otophorum</i> (Miq.) Koidz.	
オニヒカゲワラビ	<i>Diplazium nipponicum</i> Tagawa	
オシダ科 DRYOPTERIDACEAE		
エンシュウベニシダ	<i>Dryopteris medioxima</i> Koidz.	
トウゴクシダ	<i>D. nipponensis</i> Koidz.	
オクマワラビ	<i>D. uniformis</i> (Makino) Makino	
[被子植物 ANGIOSPERMAE]		
サトイモ科 ARACEAE		
ナンゴクウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> Blume subsp. <i>thunbergii</i>	
アオウキクサ	<i>Lemna aukikusa</i> Beppu et Murata.	
ユリ科 LILIACEAE		
ホトトギス	<i>Tricyrtis hirta</i> (Thunb.) Hook.	
ラン科 ORCHIDACEAE		
エビネ	<i>Calanthe discolor</i> Lindl. var. <i>discolor</i>	
ナツエビネ	<i>C. puberula</i> Lindl.	
サイハイラン	<i>Cremastra appendiculata</i> (D. Don) Makino var. <i>variabilis</i> (Blume) I. D. Lund	
クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i> Thunb.	
セッコク	<i>Dendrobium moniliforme</i> (L.) Sw.	
ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i> Rchb. f.	
ムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i> Blume	
ウスギムヨウラン	<i>L. kiusiana</i> Tuyama	
ススキノキ科 XANTHORRHOEACEAE		
トキワカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>sempervirens</i> (Araki) M. Hotta	栽培
キジカクシ科 ASPARAGACEAE		
ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon ohwii</i> Okuyama	
ミズアオイ科 PONTEDERACEAE		
コナギ	<i>Monochoria plantaginea</i> (Roxb.) Kunth	
ガマ科 TYPHACEAE		
ガマ	<i>Typha latifolia</i> L.	
コガマ	<i>T. orientalis</i> C. Presl	
ホシクサ科 ERIOCAULACEAE		
ホシクサ	<i>Eriocaulon cinereum</i> R. Br.	
クロホシクサ	<i>E. parvum</i> Koern.	
イグサ科 JUNCACEAE		
コウガイゼキショウ	<i>Juncus prismatocarpus</i> R. Br. subsp. <i>leschenaultii</i> (J. Gay ex Laharpe) Kirschner	
カヤツリグサ科 CYPERACEAE		
カサスゲ	<i>Carex dispalata</i> Boott	
ヒナガヤツリ	<i>Cyperus flaccidus</i> R. Br.	

カワラスガナ	<i>C. sanguinolentus</i> Vahl	
セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. et Sav.) Palla	
ハリイ	<i>E. pellucida</i> J. et C. Presl	
イトイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora faberi</i> C.B. Clarke	
イヌノハナヒゲ	<i>R. rugosa</i> (Vahl) Gale	
ホタルイ	<i>Schoenoplectus hotarui</i> (Ohwi) Holub	
ヒメカンガレイ	<i>S. mucronatus</i> (L.) Palla var. <i>mucronatus</i>	
フトイ	<i>S. tabernaemontani</i> (C.C. Gmel.) Pal	
カンガレイ	<i>S. triangulatus</i> (Roxb.) Soják	
エゾアブラガヤ (ヒゲアブラガヤ)	<i>Scirpus asiaticus</i> Beetle	
イネ科 Gramineae		
カリマタガヤ	<i>Dimeria ornithopoda</i> Trin. var. <i>yakusimensis</i> Honda ex Masam.	
ササガヤ	<i>Eulalia borealis</i> (Ohwi) T. Koyama var. <i>japonica</i> (Miq.) T. Koyama	
ムツオレゲサ	<i>Glyceria acutiflora</i> Torr.	
アゼガヤ	<i>Leptochloa chinensis</i> (L.) Nees	
ササクサ	<i>Lophatherum gracile</i> Brongn.	
ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i> Thunb.	
アオチカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i> (L.) Spreng. f. <i>viridescens</i> (Miq.) Ohwi	
ツルヨシ	<i>Phragmites japonicus</i> Steud.	
セイタカヨシ (セイコノヨシ)	<i>Phragmites kurka</i> (Retz.) Trin. ex Steud.	
ケシ科 PAPAVERACEAE		
ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i> L.	帰化植物
アワブキ科 SABIACEAE		
アオカズラ	<i>Sabia japonica</i> Maxim.	
ユキノシタ科 SAXIFRAGACEAE		
ジンジソウ	<i>Saxifraga madida</i> (Maxim.) Makino	
アリノトウグサ科 HALORAGACEAE		
アリノトウグサ	<i>Haloragis micrantha</i> (Thunb.) R. Br.	
ブドウ科 VITACEAE		
ケサンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i> Thunb. var. <i>rufotomentosa</i> Makino	
マメ科 FABACEAE		
ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i> Durazz	
シロバナシナガワハギ	<i>Melilotus officinalis</i> (L.) Pall. subsp. <i>albus</i> (Medik.) H. Ohashi et Tateishi	帰化植物
ヤブツルアズキ	<i>Phaseolus angularis</i> (Willd.) W.F. Wight var. <i>nipponensis</i> (Ohwi) Ohwi	
ナツフジ	<i>Wisteria japonica</i> Siebold et Zucc.	
バラ科 ROSACEAE		
クサイチゴ	<i>Rubus ohmatiensis</i> Nakai	
イラクサ科 URTICACEAE		
トウカテンソウ	<i>Nanocnide pilosa</i> Migo	
ミヤマミズ	<i>Pilea angulata</i> (Blume) Blume	
ミズ	<i>P. hamaoi</i> Makino	
ブナ科 FAGACEAE		
スダジイ	<i>Castanopsis sieboldii</i> (Makino) Hatus. ex T. Yamaz. et Mashiba	
ニシキギ科 CELASTRACEAE		
ツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> (Turcz.) Hand.-Mazz. var. <i>radicans</i> (Miq.) Rehder	
トウダイグサ科 EUPHORBIACEAE		
オオニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i> auct. non L.	帰化植物
シラキ	<i>Neoshirakia japonica</i> (Siebold et Zucc.) Esser	
ミカンソウ科 PHYLLANTHACEAE		
ナガエコミカンソウ	<i>Phyllanthus tenellus</i> Roxb.	帰化植物
オトギリソウ科 CLUSIACEAE		
コケオトギリ	<i>Hypericum japonicum</i> Thunb. f. <i>tenuius</i> Miq.	
ミソハギ科 LYTHRACEAE		
キカシグサ	<i>Rotala indica</i> (Willd.) Koehne var. <i>uliginosa</i> (Miq.) Koehne	
ミズマツバ	<i>R. mexicana</i> Cham. et Schltdl.	
アカバナ科 ONAGRACEAE		
チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i> Maxim.	

ミズユキノシタ	<i>L. ovalis</i> Miq.	
ビャクダン科 SANTALACEAE		
ヒノキバヤドリギ	<i>Korthalsella japonica</i> (Thunb.) Engl.	
タデ科 POLYGONACEAE		
サクラタデ	<i>Persicaria conspicua</i> (Nakai) Nakai ex Ohki	
ハナタデ	<i>P. posumbu</i> (Buch.-Ham. ex D.Don) H.Gross	
ナデシコ科 CARYOPHYLLACEA		
サワハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> Maxim.	
アジサイ科 HYDRANGEACEAE		
クサアジサイ	<i>Cardiandra alternifolia</i> Siebold et Zucc.	
ガクウツギ	<i>Hydrangea scandens</i> (L.f.) Ser.	
サクラソウ科 PRIMULACEAE		
オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i> Duby	
アカネ科 RUBIACEAE		
ニセジュズネノキ	<i>Damnacanthus indicus</i> Gaertn.f. var. <i>major</i> (Siebold et Zucc.) Makino	
フタバムグラ	<i>Hedyotis brachypoda</i> (DC.) Sivar. et Biju	
マチン科 LOGANIACEAE		
アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaca</i> R.Br	
キョウチクトウ科 APOCYNACEAE		
シタキソウ	<i>Jasminanthes mucronata</i> (Blanco) W.D.Stevens et P.T.Li	
ヒルガオ科 CONVOLVULACEAE		
マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i> L.	
ナス科 SOLANACEAE		
センナリホオズキ	<i>Physalis minima</i> auct. non L.	帰化植物
オオバコ科 PLANTAGINACEAE		
ウキアゼナ	<i>Bacopa rotundifolia</i> (Michx.) Wettst.	
シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> (Osbeck) Merr. subsp. <i>aromatica</i> (Lam.) T.Yamaz.	
スズメノハコベ	<i>Microcarpaea minima</i> (J.König ex Retz.) Merr.	
ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i> L.	帰化植物
アゼナ科 LINDERNIACEAE		
アゼトウガラシ	<i>Lindernia micrantha</i> D.Don	
シソ科 LAMIACEAE		
ボタンクサギ	<i>Clerodendrum bungei</i> Steud.	栽培逸出
イヌコウジュ	<i>Mosla scabra</i> (Thunb.) C.Y.Wu et H.W.Li	
ハルノタムラソウ	<i>Salvia ranzaniana</i> Makino	
ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> Blume var. <i>miquelianum</i> (Maxim.) H.Hara	
タヌキモ科 LENTIBULARIACEAE		
ミミカキグサ	<i>Utricularia bifida</i> L.	
キツネノマゴ科 ACANTHACEAE		
オギノツメ	<i>Hygrophila lancea</i> (Thunb.)	
クマツヅラ科 VERBENACEAE		
ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i> L.	帰化植物
アレチハナガサ	<i>V. brasiliensis</i> Vell.	帰化植物
ハマクマツヅラ	<i>V. litoralis</i> Kunth	帰化植物
キキョウ科 CAMPANULACEAE		
ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> Lam. var. <i>punctata</i>	栽培逸出
ツルギキョウ	<i>Codonopsis javanica</i> (Blume) Hook.f. et Thomson subsp. <i>japonica</i> (Makino) Lam-mers	
キク科 ASTERACEAE		
カッコウアザミ	<i>Ageratum conyzoides</i> L.	帰化植物
キッコウハグマ	<i>Ainsliaea apiculata</i> Sch.Bip.	
イワヨモギ	<i>Artemisia iwayomogi</i> Kitam.	帰化植物
ノコンギク	<i>Aster ageratoides</i> Turcz. var. <i>ovatus</i> (Franch. et Sav.) Nakai	
タウコギ	<i>Bidens ripartita</i> L.	
サツマアザミ	<i>Cirsium austrokiushianum</i> Kitam.	
ヤマヒヨドリ	<i>Eupatorium variabile</i> Makino	
ウラジロチコグサ	<i>Gamochaeta coarctatum</i> (Willd.) Kerguelen	帰化植物
ウコギ科 ARALIACEAE		
ウチワゼニクサ	<i>Hydrocotyle verticillata</i> Thunb. var. <i>triradiata</i> (A.Rich.) Fernald	帰化植物

【環境省絶滅危惧種】 () は撮影日



図7 トウカテンソウ(2019/4/18)



図8 アオカズラ(2019/3/9)



図9 ヒメカンガレイ(2020/7/1)



図10 ミズトンボ(2020/9/10)



図11 ナツエビネ(2019/8/22)



図12 クマガイソウ(2019/4/22)



図13 クロホシクサ(2020/9/10)



図14 ツルギキョウ(2019/11/13)



図15 サツママアザミ(2019/12/18)



図16 ミズまつば, スズメノハコベ
(2020/9/24)



図17 エビネ(2020/5/6)



図18 ウスギムヨウラン
(2020/5/23)

【鹿児島県絶滅危惧種】 () は撮影日



図19 ジンソウ(2019/11/13)



図20 サイハイラン(2019/5/6)



図21 ムヨウラン(2019/5/23)